

■ 2-5 聖霊高等・中学校

(1)学校としての戦略

1949年に名古屋三の丸で誕生した本校は、1970年には瀬戸市の現在の校地へ移転。その50年後となる2020年度、旧南山大学瀬戸キャンパス内に新校舎が完成し、二度目の移転を経て新たな出発を迎えます。南山学園の教育方針「人間の尊厳のために」、そして本校創立時の建学の精神を表す「光の子として生活せよ」の聖書のことばをあらゆる教育活動の中心に据え、多くの人々によって育まれた本校の伝統的教育である、「宗教教育」、「外国語教育」そして「情操教育」の三本の柱を継承していきます。また同時に、新しいキャンパスを最大限活用しながら、大学入試改革や学習指導要領改訂に適切に対応することを通じて、未来の聖霊生のためにさらに輝く学校づくりを目指します。

具体的には、アドミッション・ポリシーに基づく生徒募集活動の見直し、中学・高校の新しい教育課程を完成させ、新しい学力観に基づいたカリキュラム・ポリシーの構築、大学入試改革に対応しながら、女子中高一貫校として新たな時代を生きる女性を目指すディプロマ・ポリシーの開発など、新しい校舎で生まれ変わる聖霊の学校像を組み立て、賢明な児童に選ばれる学校づくりを目指します。

(2)教育・研究

1. 新校舎の教育的活用

新キャンパスの完成を受けて、文化祭・体育祭・宗教行事・式典などの学校行事、外来者の来校を伴うオープンキャンパスなどの広報的な企画、日常の学習活動や課外活動に至るまで、校舎や施設設備、キャンパス全体の活用について、実施場所、実施要項などを総点検し、年間を通して教育的効果を向上させながら、活力ある学校生活を工夫します。

2. 中学校の教育課程の改訂と大学入学共通テストへの対応

本校創立以来の伝統的教育である「宗教教育」「外国語教育」「情操教育」の三本柱を新しい教育課程に於いても基調に据え、1日の始まりの時鈴から新キャンパスでの学校生活リズムを確立し、中学・高校それぞれの教育課程の改訂作業を進めます。特に、高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習の指導内容について、校内での研究を進め、中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの新しい六年一貫の指導課程を検討します。

新しく導入される大学入学共通テストに対して、これまでの大学入試動向を踏まえつつ、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、新しい時代の進路指導の在り方を全教職員の共通する指導目標に位置付けます。

また、中学3年生で実施する職業体験やハローワーク講座、高校生の校外事業所でのインターシップなどの活動を、それぞれの年齢にふさわしい職業観の育成や、将来の進路選択の基となる活動として継承していきます。

3. オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し

本校で実施するオーストラリア研修およびアイルランド研修について、利用航空便、参加生徒数、引率教員のありかた、現地校滞在日程・観光地などについて、海外研修として安定した形態、参加生徒保護者の評価の向上などを目標に、年度ごとの評価と修正を継続させていきます。さらに、既成研修と差別化を図りつつもう一つの海外研修の創設を検討します。

4. 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携

学園内連携が低調な現状から、南山大学附属小学校から本校への進学者増加を目指して、地理的な要因を超えて、部活動・文化活動・オープンスクールなどでの児童生徒間の交流や提携、さらに教職員間の教科指導などでの交流の機会を検討します。

5. 「EVE, My 青春！」の継続実施と実施場所等将来設計の検討

在校生だけにとどまらず多くの卒業生にとっても誇りの持てる伝統行事のひとつとして、2020年度は、名古屋駅前これまででない形態での実施となりました。2021年度以降は、Hisaya-odori Park（久屋大通公園）やオアシス21での屋外開催と、愛知芸術文化センター等の屋内開催の両方を視野に入れ、伝統を長く継続していける実施場所や実施形態についてさらに検討を継続します。

6. 中学校入試ならびに高等学校入試の総合的な見直し

聖霊中学校入試および高等学校入試について、最新の入試結果を踏まえて入試日程、入試内容、対外的な広報活動等を年度ごとに見直し、それぞれの定員生徒数を安定して確保しながら、生徒層の向上、拡大を目指します。

(3)施設・設備

1. ICT 機器の教育利用を中心とした教育環境整備

初期段階でのコンピュータの更新に続き、映像配信システム、インタラクティブホワイトボードなど新しいICT教育機器の導入を実施し、教職員へのタブレット配備や生徒用ICT教育機器の試験的導入を進めながら、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について研究を進めます。その成果に基づいて次期ICT教育環境の整備計画を立案します。

2. 新校舎の施設設備の確認と更なる施設設備整備の検討

新キャンパスの安全な利用を確認しながら、教育環境整備と魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに、施設設備の保守管理・定期点検等に必要となる経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を立案します。また、第2体育館、グラウンドやテニスコートなど、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を検討し、可能なところから改修・整備を進めます。教育職員の勤怠管理のあり方について検討し、必要な機器整備を進めます。

3. 本校 Web ページリニューアルの検討

本校の Web ページについて、新キャンパスの新しいイメージを発信するため、スマートフォンへの対応も意識した新しいデザインへのリニューアルを開始します。

(4)社会貢献

1. 募金活動

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒からの献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けます。2019年度のオーストラリアでの大火災など、国内外の被災地域に向けて生徒会などによる募金活動、学年単位や部活動単位で進められる募金活動を積極的に支援します。

2. ボランティア活動

夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索します。

3. 地域との連携

地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験において瀬戸市を中心とした事業所に生徒受け入れの協力をお願いします。また、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、生徒が持ち寄った花束を、瀬戸市長をはじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けます。

(5)財政計画

経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、スクールバス運営の財政改善に向けた料金改定や路線の見直し、ICT教育環境整備計画推進のための実習経費の徴収等を含めて継続的

に検討します。また、広大な新キャンパスのメンテナンスコストについては、分野ごとの規模を見極めながら、全体として支出の抑制に努めます。

(6)組織運営と人材育成

1. 校務組織について

役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌組織全体の改編について年度ごとの評価をしながら継続的に検討します。勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、新キャンパスでの勤怠管理や校舎管理方法なども併せ、様々な業務について総点検を進めます。

2. 教員の教科ごとの構成について

本校の中学校・高等学校の新しい教育課程を完成させ、教科ごとの授業数や教員数を基づいた教員構成について見直します。今後の定年退職予定者や学園内他設置校からの教員の異動等による教員の年齢構成の変化に十分配慮して今後の教員採用計画を立案します。